

トータルバランスに優れた500Eにはホンモノの足が必要
極限までチューニングされた高性能ダンパーの実力



124FUNCTION ファンクション

エンドレスとセントラルオートのコラボレートダンパー第二弾として登場した124ファンクション。単筒倒立式で6段の減衰力調整が備わる。

- 価格:268,000円
- 問い合わせ:セントラルオート
- TEL:03-3883-9922
- URL:http://www.central-auto.net/

TEST CAR

92年式 MERCEDES-BENZ 500 E



今回のテスト車両は92年式の500E。機関部分はセントラルオートにて徹底的なメンテナンスを実施。おかげで大きなトラブルもなく絶好調であるとのこと。オーナーはメルセデス・ベンツを中心とした欧州車の販売を行なっているビルトボックス代表の佐藤さん。



調整式のピロアッパーマウントは、好みに合わせたキャンバーやキャスターの調整が可能。



車高に合わせたストローク量の確保に重点を置いたアジャスタブルブラケット。

走行ステージに合わせた最適なセッティングを実現する6段の減衰力調整が付く。調整はタイヤの裏側にあるメモリを見ながらできるので、鏡などを使えば、ジャッキアップせずに調整することが可能だ。

**あらゆる
 走行ステージで最適な
 乗り味を感じさせてくれた**



純正のダンパーでも、レバライザーを組み込んだリアサスは、維持にそれなりの費用を要求される。長く乗り続けるなら、こうしたオーバーホールが可能なダンパーに交換してしまうのもいい手じゃないだろうか。

は路面の継ぎ目などのギャップで縮み側の減衰が若干高めな印象も見せただけ、そんな20km/h以下の領域はどうでもいいユーザーなら、この仕様で市街地から高速まで快適な乗り心地と高い操安性を見せるだけで大喜びするんじゃないだろうか。でも減衰力調整を1段階かしたただけで、その乗り味はガラリと変わってしまったのにも驚いた。2段階目が絶妙な乗り味とすれば、3段階目は高速走行だけ快適なハードな特性、1段階目はノーマルよりも乗り心地に優れたたゆんだりした乗り味で、4段階目以上はまず出番はなさそう。これは6段階ある減衰力調整の調整幅が広過ぎるというわけじゃない。それくらい、このクルマのセッティン

グが微妙なのである。改めて感じたのはW124、とりわけ500Eというクルマの完成度の高さだった。ノーマルの車高、タイヤサイズであればダンパーに求められる能力はそれほど高くない。ところがインチャップやローダウンなどで、そのバランスを崩した途端500Eの重厚かつスポーティという独特の乗り味は見事に失われてしまう。それをバランスさせるのは、高性能なダンパーを極限までチューニングしてこそ可能なのである。ちなみにアンフィニオリジナルの強化スプリングを組み込んだ場合、3段階目がジャストフィットとのこと。足の仕様にお悩みなら、コイツが解決策になつてくれそうです。

トータルバランスに優れた500Eだからこそホンモノの足が必要

**極限までチューニングされた
 高性能ダンパーの実力**

W210型E55用に続き、エンドレスとセントラルオートのコラボレーション第二弾として「124FUNCTION」が登場した。その名の通りW124型500E専用のダンパーである。さてその実力はどれほどのものか。自動車ライター高根英幸氏がテストする。

文=高根英幸 撮影=古閑章郎 (GERMAN CARS 写真部) /G.C.E. 協力=セントラルオート/エンドレス

ENDLESS & CENTRAL AUTO
124FUNCTION



**500Eは社外ダンパーの
 選択肢が少ない**

W210のE55 AMG用ダンパーを皮切りにしたセントラル&エンドレス「ZEAL」のコラボレーションの続編が登場するという。

E55用のZEALはノーマルダンパーよりも性能や機能に優れ、おまけに価格も安いことから、こんなリーズナブルな高性能ダンパーもない。そんな実績を元を生み出される第一弾は、W124の500E用だ。キッチリとオリジナルの状態をキープして乗り続けるオーナーにとって、ノーマルの足回りは全く不満などないだろうが、積極的にモディファイを楽しむオーナーには、選択肢の少なさが足かせとなっていたのは事実なのである。

もっとも500E用はまだ完全な製品版としての仕様は固まっておらず試作品の段階だけれど、開発を重ねて概ね満足できるものができたので、試乗させてもらったのだ。

ただし試乗車はノーマルスプリングのままラバシムを一番薄いものとし、リアのレバライザーも殺していることもあって、前後とも4cm以上も車高が下がっており、おまけにホイールもAMGの19インチを履くといった仕様で、正直言って乗り心地にも走りにもいい影響を与えるモディファイじゃあない。これをダンパーの能力だけでカバーしようというのは、無茶というもんだ。

ところがセントラルが共同開発したZEALのダンパーを装着した500Eはこんな仕様でも、驚くほどしなやかな走りを見せたのだ。厳密に言えば15km/h以下の速度域で